

2025年5月7日

2025年3月期 決算説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード:2053
ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>
お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部

目次

25. 3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	11
② 差別化飼料・環境に配慮した飼料の販売状況 ..	12
③ 原料ポジションの状況	13
④ 変動費の状況	14
⑤ 水産飼料の動向	15
◇ その他セグメントの状況	17

中期経営計画2024の進捗状況 (2025年3月期～27年3月期)

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	19
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	20
② 飼料セグメント	21
③ その他セグメント	22
④ サステナビリティ経営	23

2026年3月期業績予想

◇ 26.3期 業績予想	25
◇ 26.3期 営業利益の増減要因	26
◇ 26.3期 主要指標計画	27
◇ 取組み方針	28
◇ 株主還元計画	29

その他

◇ トピックス	31
◇ 配合飼料価格安定制度、差別化飼料等	32
◇ 飼養頭羽数及び戸数の推移	33

25.3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	11
② 差別化飼料・環境に配慮した飼料の販売状況 ..	12
③ 原料ポジションの状況	13
④ 変動費の状況	14
⑤ 水産飼料の動向	15
◇ その他セグメントの状況	17

中期経営計画2024の進捗状況 (2025年3月期～27年3月期)

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	19
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	20
② 飼料セグメント	21
③ その他セグメント	22
④ サステナビリティ経営	23

2026年3月期業績予想

◇ 26.3期 業績予想	25
◇ 26.3期 営業利益の増減要因	26
◇ 26.3期 主要指標計画	27
◇ 取組み方針	28
◇ 株主還元計画	29

その他

◇ トピックス	31
◇ 配合飼料価格安定制度、差別化飼料等	32
◇ 飼養頭羽数及び戸数の推移	33

連結経営成績

(単位:百万円)

	24.3 実	25.3 計	25.3 実	計画比	前期比
売上高	234,227	209,000	209,837	837	△ 24,390
飼料	218,889	-	191,390	-	△ 27,499
その他 ※1	15,337	-	18,447	-	3,109
営業利益	3,932	4,200	4,281	81	349
経常利益	4,464	4,600	4,815	215	350
セグメント利益 ※2	4,487	4,900	4,986	86	499
飼料	4,301	4,350	3,958	△ 392	△ 342
その他 ※1	821	900	1,405	505	583
調整額 ※3	△ 635	△ 350	△ 377	△ 27	257
当期純利益	3,327	3,400	3,503	103	176
ROE	5.3%	5.3%	5.3%	△ 0.0%	0.0%
DOE	1.9%	2.3%	2.3%	0.0%	0.4%
設備投資額	4,098	4,000	4,167	167	68
減価償却費	2,935	3,000	2,971	△ 29	36
基金負担金	4,072	5,400	5,238	△ 162	1,165

◇ 売上高は、みらい飼料の連結除外、畜産飼料の平均売価下落等により減収。

◇ セグメント利益について、飼料セグメントは11ページ以降、その他セグメントは17ページを参照。なお調整額は、事業譲渡損が発生したもの、受取配当金の増加と投資有価証券売却益等により改善

[参考]

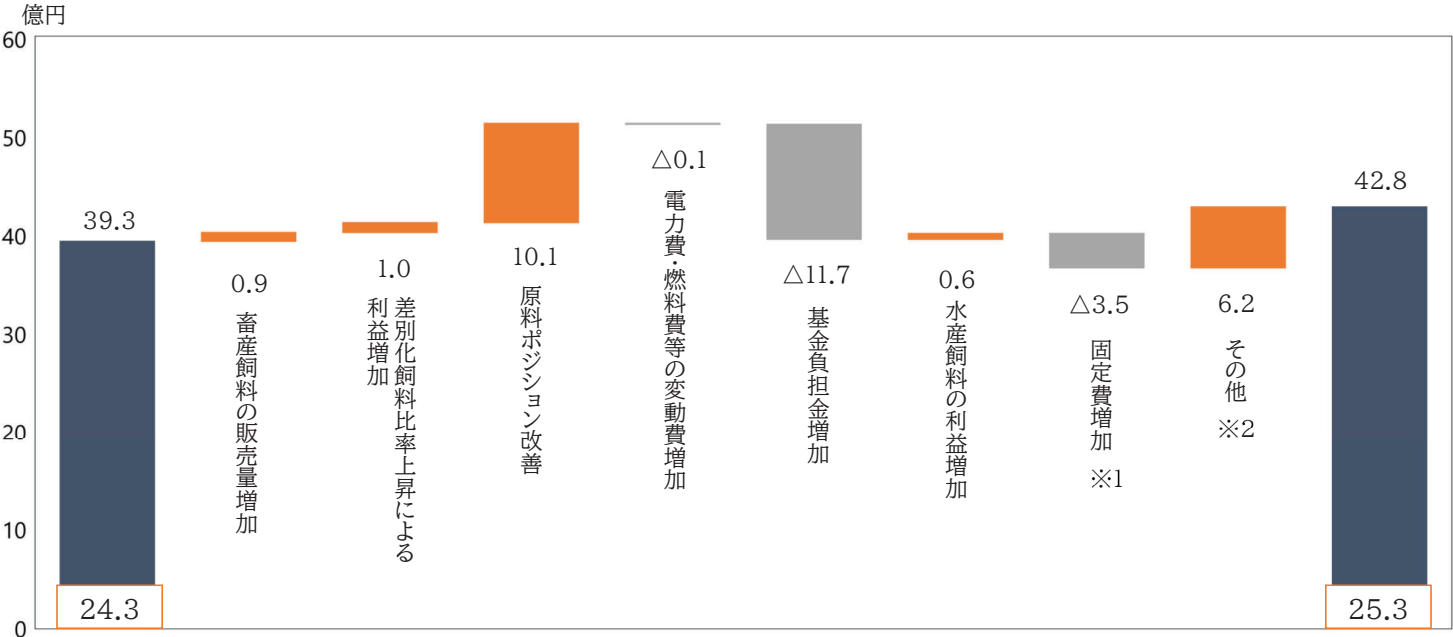
ROE:自己資本利益率。自己資本に対してどれだけの利益を生み出したのかを表す指標。

DOE:純資産配当率。企業が純資産に対してどの程度の配当を支払っているかを示す指標。

※1. その他セグメント:鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
 2. セグメント利益:税金等調整前四半期純利益
 3. 調整額:各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

営業利益の増減要因

◇ 営業利益は、基金負担金増加も原料ポジション改善、その他セグメントの利益増加により増益



※1. 連結から除外した会社の固定費の影響を除く
※2. 主にその他セグメントの増益

連結財政状態(25.3期 要約連結貸借対照表)

(単位:億円)

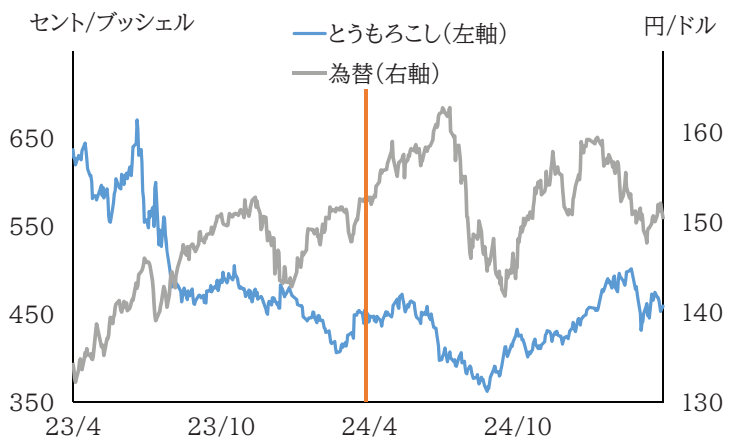
流動資産	661 (△33)	負債	340 (△40)
現預金	119 (+89)	買掛金	152 (△60)
売上債権	389 (△70)	有利子負債	98 (+21)
たな卸資産	110 (△25)	DEレシオ	0.14倍(+0.03倍)
流動比率	283.2%(+48.7pt)	純資産	675 (+18)
固定資産	354 (+11)	その他包括利益	31 (△2)
有形	257 (+10)	非支配株主持分	0 (+0)
無形	3 (△0)	自己資本比率	66.4 %(+3.2pt)
投資その他	92 (+1)		
総資産	1,015 (△22)	負債・純資産	1,015 (△22)

[参考]
DEレシオ:負債資本比率。有利子負債が自己資本の何倍かを計算した数値。

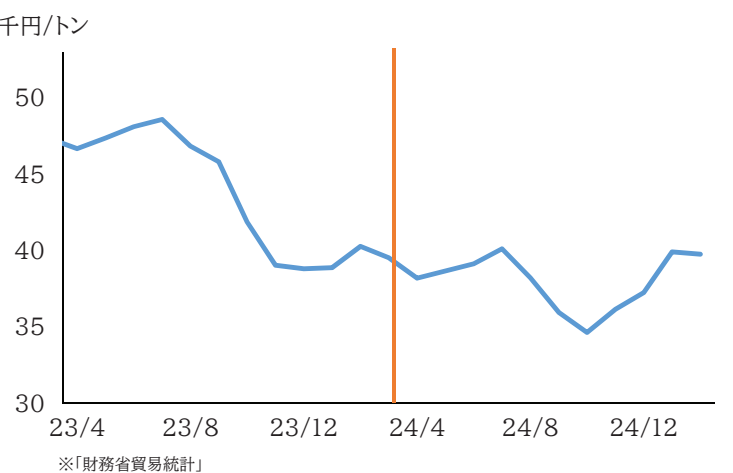
事業環境①

- ◇ 為替相場は円安が進み、一時的に160円/ドルを上回る。その後、乱高下が続いたものの、前期比で円安が進展。
- ◇ とうもろこし相場は23年6月以降下落。24年夏には400セントを下回り、前期比で下落。
- ◇ とうもろこしの通関価格は前期よりも下落。

とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移



とうもろこし通関価格の推移

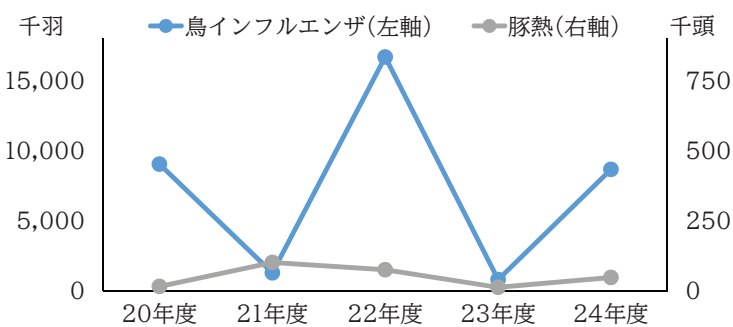


※「財務省貿易統計」

事業環境②

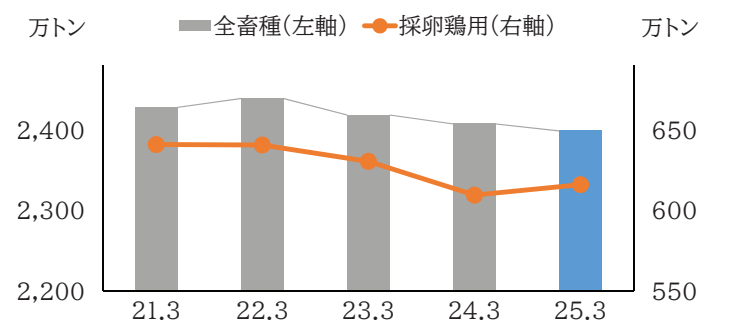
- ◇ 前年度対比で鳥インフルエンザ及び豚熱の発生は増加。一方、畜産飼料の市場流通量は概ね横ばい。
- 鳥インフルエンザの影響で減少していた採卵鶏用飼料が回復。
- 堅調な鶏肉需要を背景に、ブロイラー用飼料が好調に推移。
- 養豚用飼料は前年の猛暑や疾病の影響に加え、今夏の猛暑の影響もあり減少。
- 養牛用飼料は今夏の猛暑及び離農者数が増えたことにより微減。

鳥インフルエンザ及び豚熱 発生農場の飼養頭羽数



※1.「農林水産省」
2. 鳥インフルエンザの飼養羽数は採卵鶏用の値
3. 24年度全国の飼養頭羽数のうち、発生農場における飼養頭羽数の割合は採卵鶏では6.7%、養豚では0.5%

畜産飼料の市場流通量 推移

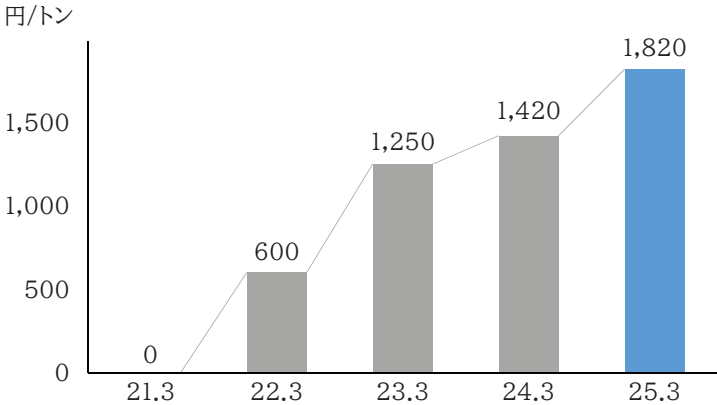


※1.「農林水産省飼料月報」、輸出用除く
2. 25.3は4-2月の速報値に3月を前年並みとして試算

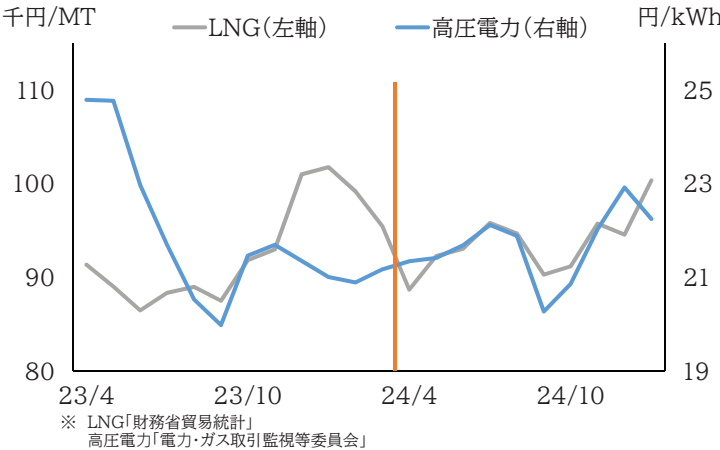
- ◇ 飼料原料価格の上昇により、21年1-3月から23年10-12月まで、12四半期連続で補填金が発動。
- ◇ その結果、基金の財源が枯渇し、積立金単価は上昇。

- ◇ LNGは24年4月に底を打ち、緩やかに上昇し前期比で上昇。
- ◇ 高圧電力は23年6月以降下落し、その後安定的に推移。24年10月より上昇基調も前期比では下落。

基金積立金単価の推移



エネルギー単価の推移



25.3期 決算レビュー

- ◇ 連結経営成績 4
- ◇ 営業利益の増減要因 5
- ◇ 連結財政状態 6
- ◇ 事業環境①②③ 7-9
- ◇ 飼料セグメントの状況
 - ① 畜産飼料の動向 11
 - ② 差別化飼料・環境に配慮した飼料の販売状況 12
 - ③ 原料ポジションの状況 13
 - ④ 変動費の状況 14
 - ⑤ 水産飼料の動向 15
- ◇ その他セグメントの状況 17

中期経営計画2024の進捗状況
(2025年3月期～27年3月期)

- ◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ 19
- ◇ 中期経営計画2024の進捗
 - ① 総括 20
 - ② 飼料セグメント 21
 - ③ その他セグメント 22
 - ④ サステナビリティ経営 23

2026年3月期業績予想

- ◇ 26.3期 業績予想 25
- ◇ 26.3期 営業利益の増減要因 26
- ◇ 26.3期 主要指標計画 27
- ◇ 取組み方針 28
- ◇ 株主還元計画 29

その他

- ◇ トピックス 31
- ◇ 配合飼料価格安定制度、差別化飼料等 32
- ◇ 飼養頭羽数及び戸数の推移 33

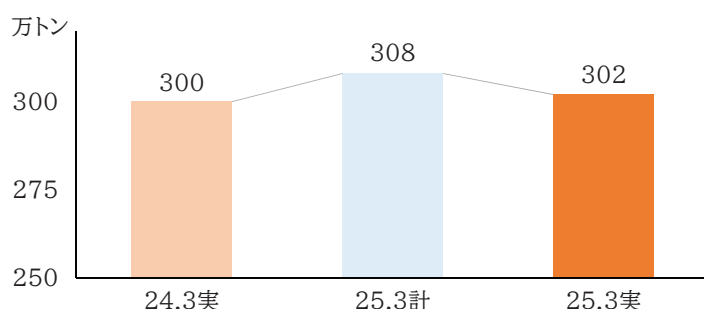
飼料セグメント① 畜産飼料の動向

◇ 畜産飼料販売量は計画未達も前期を上回り、市場流通量の前期比も上回る。

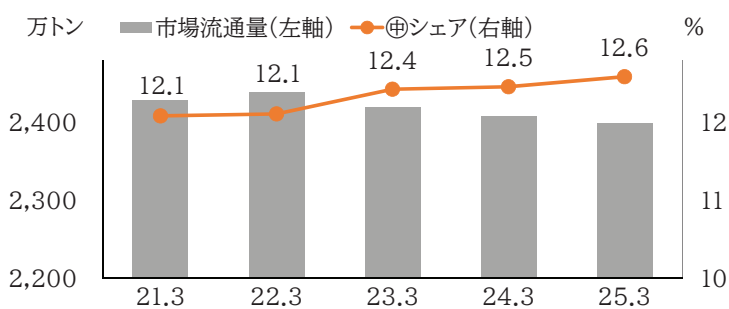
- 採卵鶏用飼料は価格競争の激化に加え、下期に鳥インフルエンザの影響を受け、微減。
- ブロイラー用飼料はお客様の生産性向上に寄与したことが評価され、回復。
- 養豚用飼料は価格競争の激化の影響はあったものの、お客様の生産性向上への取組みが評価され、微増。
- 養牛用飼料は北海道エリアにおける取組みが評価され、増加。

◆ 0.9億円の利益増加

㊦畜産飼料の販売量



市場流通量及び㊦販売シェア 推移



※1. 市場流通量「農林水産省飼料月報」
2. 25.3は4-2月の数字

11

飼料セグメント② 差別化飼料・環境に配慮した飼料の販売状況

◇ 差別化飼料比率は計画未達も前期を上回る。

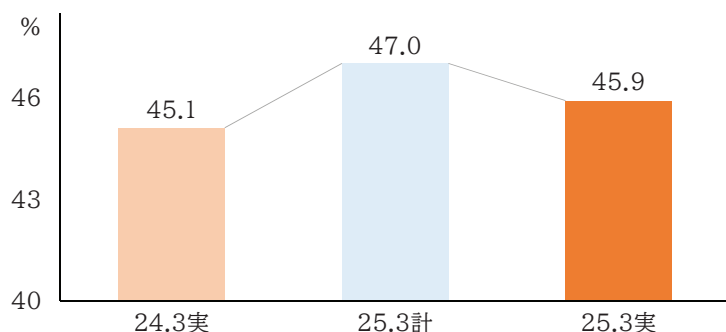
- 養牛用飼料でお客様の生産性向上に貢献する製品が堅調に推移。
- 4Qにおいて、ブロイラー用飼料の汎用製品が順調に拡販されたことにより、構成比が低下。

◆ 1.0億円の利益増加

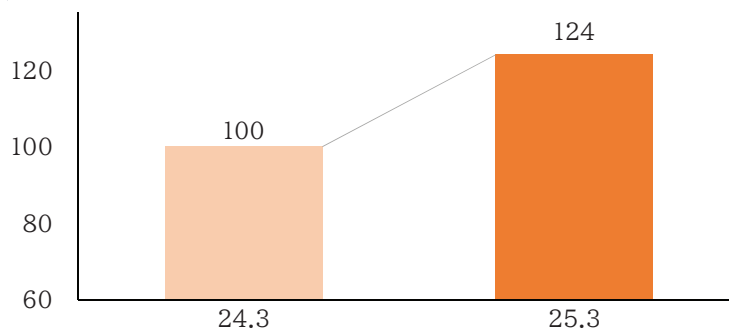
◇ 環境に配慮した飼料の販売量は前期を上回る。

- 養牛用飼料での温室効果ガスの低減を狙った製品の販売は堅調に推移。
- 採卵鶏用飼料における配合を見直し、窒素の排出を抑制する販売量が増加。

差別化飼料の売上高構成比



環境に配慮した飼料の販売量指数



※ 24.3期の販売量を100とした指数

12

飼料セグメント③ 原料ポジションの状況

【25.3期の原料ポジション】

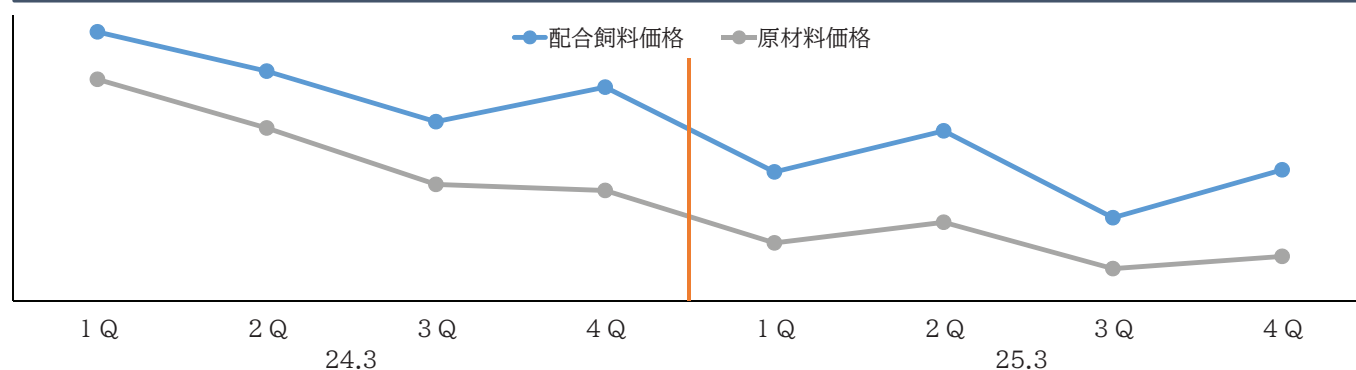
- ◇ 前期より大幅に改善。
- 特に上期において原材料価格の変動幅と販売価格の改定幅にズレが生じ前期比で大きく改善。

◆ 10.1億円の利益増加

【原料ポジションとは】

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動。
- ◇ 配合飼料価格は四半期毎に改定。
- ◇ 原材料価格と配合飼料価格の変動幅にギャップが発生することで、原料ポジションが改善、または、悪化。

④配合飼料価格及び原材料価格の推移



13

飼料セグメント④ 変動費の状況

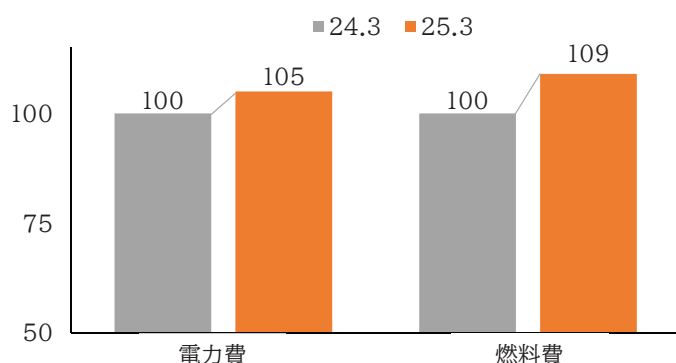
- ◇ 加工比率上昇により、電力費・燃料費単価ともに上昇。
- ◇ 倉敷料等、電力費・燃料費以外の変動費単価が下落。

◆ 変動費が0.1億円増加

- ◇ 高額な補てん金が連続で発動したため、25.3期の積立金単価が上昇し、基金負担金が増加。

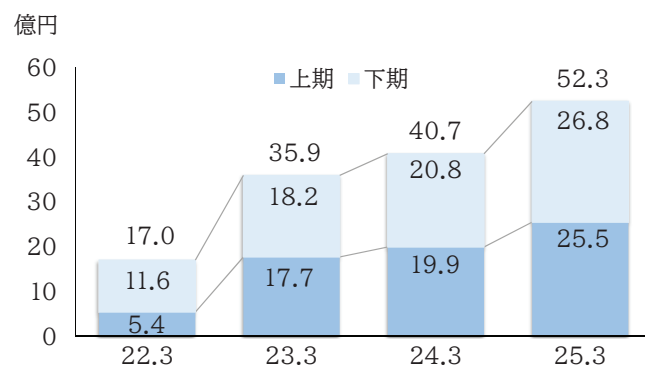
◆ 費用が11.7億円増加

④電力費及び燃料費単価の推移



※ 24.3の単価を100とした指数

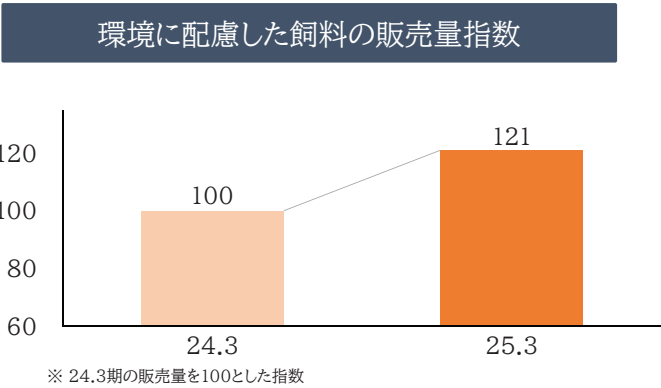
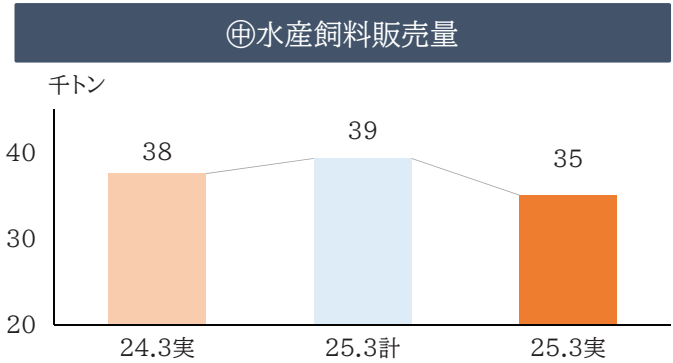
④基金負担金の推移



14

- ◇ 販売量は計画と前期ともに下回るも、環境に配慮した飼料の販売量は堅調に推移。
 - 夏の高水温や赤潮等の影響等により在池尾数が減少し、タイ及びハマチ用飼料は減少。
 - ウナギ用飼料は新製品の提案等、取組みを強化したことで増加。
- ◇ 利益率は上昇。
 - 値上げの実施及び配合割合の工夫により品質を維持しながらコストを抑制した新製品の投入。

0.6億円の利益増加



25.3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	11
② 差別化飼料・環境に配慮した飼料の販売状況	12
③ 原料ポジションの状況	13
④ 変動費の状況	14
⑤ 水産飼料の動向	15
◇ その他セグメントの状況	17

中期経営計画2024の進捗状況
(2025年3月期～27年3月期)

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	19
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	20
② 飼料セグメント	21
③ その他セグメント	22
④ サステナビリティ経営	23

2026年3月期業績予想

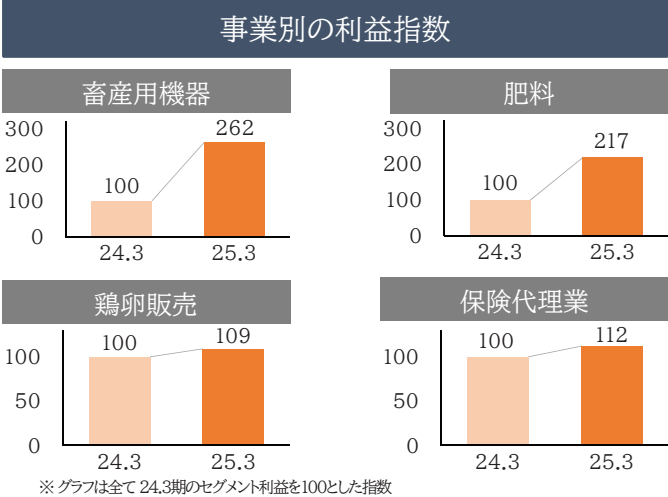
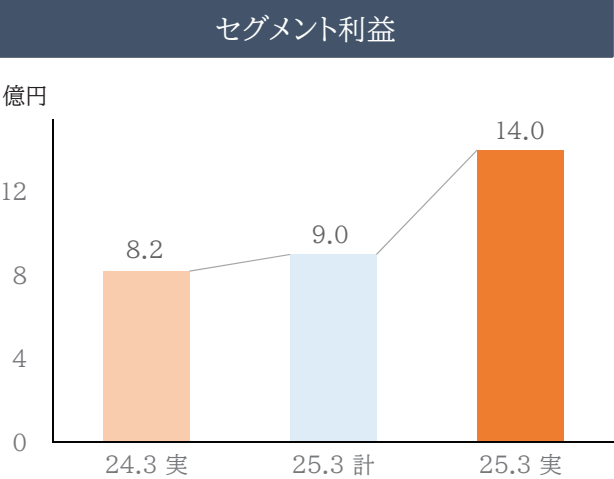
◇ 26.3期 業績予想	25
◇ 26.3期 営業利益の増減要因	26
◇ 26.3期 主要指標計画	27
◇ 取組み方針	28
◇ 株主還元計画	29

その他

◇ トピックス	31
◇ 配合飼料価格安定制度、差別化飼料等	32
◇ 飼養頭羽数及び戸数の推移	33

- ◇ 畜産用機器の好業績がけん引し、セグメント利益は前期を大きく上回る。

 - 畜産用機器は、国内外の販売台数が前期を大きく上回り、大幅な増益。
 - 鶏卵販売は、主力の『ごまたまご』リニューアル等による販売強化が奏功し、販売量と利益が増加。
 - 肥料は、生産者の需要変化に対応した製品の投入等で販売量と利益が増加。
 - 保険代理業は、畜産保険の販売件数及び利益が前期を上回り、堅調に推移。



※ グラフは全て 24.3期のセグメント利益を100とした指数

25. 3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績 4

◇ 営業利益の増減要因 5

◇ 連結財政状態 6

◇ 事業環境①②③ 7-9

◇ 飼料セグメントの状況 11

① 畜産飼料の動向 11
 ② 差別化飼料・環境に配慮した飼料の販売状況 12
 ③ 原料ポジションの状況 13
 ④ 変動費の状況 14
 ⑤ 水産飼料の動向 15

◇ その他セグメントの状況 17

中期経営計画2024の進捗状況
(2025年3月期～27年3月期)

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ 19

◇ 中期経営計画2024の進捗

① 総括 20
 ② 飼料セグメント 21
 ③ その他セグメント 22
 ④ サステナビリティ経営 23

2026年3月期業績予想

◇ 26.3期 業績予想 25

◇ 26.3期 営業利益の増減要因 26

◇ 26.3期 主要指標計画 27
 ◇ 取組み方針 28
 ◇ 株主還元計画 29

その他

◇ トピックス 31

◇ 配合飼料価格安定制度、差別化飼料等 32
 ◇ 飼養頭羽数及び戸数の推移 33

基本方針

中長期的な企業価値の向上とさらなる成長を実現するため、収益力向上と規模拡大により強い収益基盤を構築する。

+

資本コストを意識した経営を実践し、PBR向上を図る。

基本戦略

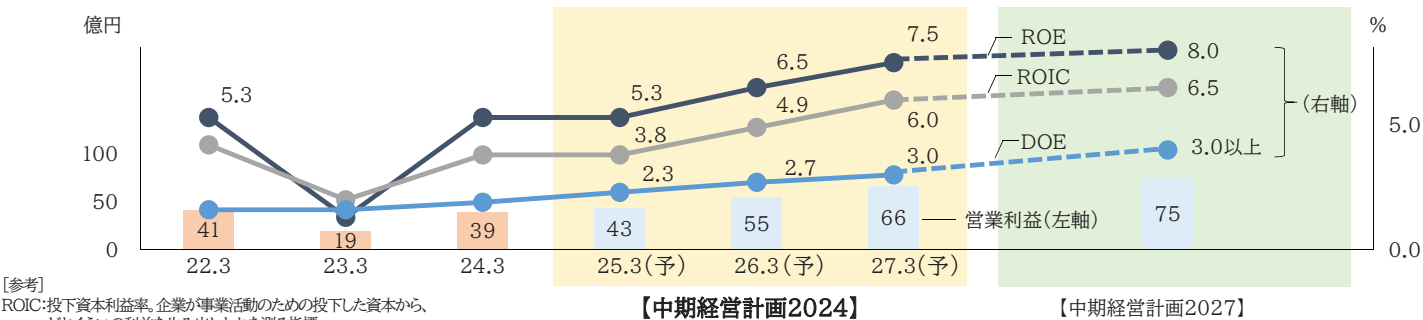
1. 飼料セグメントの収益力向上と規模拡大

2. その他セグメントの事業成長の加速

3. 収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進

[参考]
PBR:株価純資産倍率。株価が1株当たり純資産の何倍であるかを示す指標

位置づけ: 回復基調を確実なものとし、より強い収益基盤を再構築=持続的な成長を実現

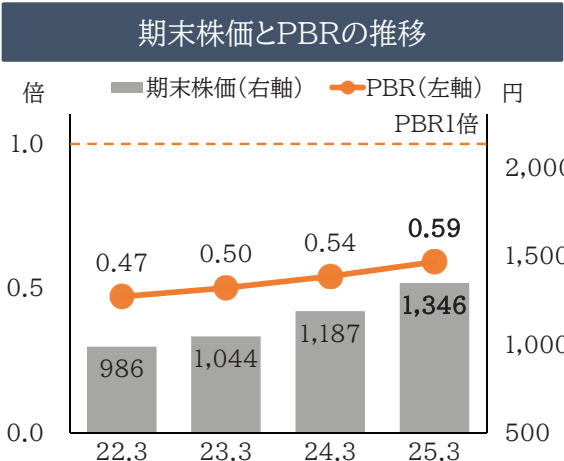


[参考]
ROIC:投下資本利益率。企業が事業活動のための投下した資本から、どれくらいの利益を生み出したかを測る指標。

◇ 中期経営計画2024の計画1年目の取組み結果

- 営業利益は計画を超過、ROE及びDOEは計画どおり。ROICは投下資本(平均)が増加したことから、計画を若干下回る。
- PBR(25年3月末)は改善傾向にあるも1倍割れの状態が続く。

	24.3 実	25.3 計(1年目)	25.3 実
営業利益	3,932百万円	4,200百万円	4,281百万円
ROE	5.3%	5.3%	5.3%
ROIC	3.8%	3.8%	3.7%
DOE	1.9%	2.3%	2.3%



1. 飼料セグメントの収益力向上と規模拡大

基本戦略	25.3期(計画1年目)の取組み評価と課題	
【畜産飼料】 ◇ 製販研一体取組みの推進 ◇ 環境に配慮した飼料の開発・販売 ◇ 差別化飼料の拡販 ◇ 原価低減、生産性の向上 【水産飼料】 ◇ 低・無魚粉飼料の拡販 ◇ 試験漁場を持つ強みを生かし、新製品の開発を加速 ◇ 高付加価値水産物の販売強化 【飼料セグメント共通】 ◇ 営業・研究人員の増員・育成 ◇ ROICツリーの活用	畜産飼料	
		◇ 製販研一体取組み、営業や研究人員体制の充実及び差別化飼料の拡販に課題が残り、販売量が伸び悩む。 ◇ 環境に配慮した飼料への取組み及び原価低減の取組みは着実に進展。 ◇ ROICツリーの活用の落とし込みが不十分。
	水産飼料	
		◇ 低・無魚粉飼料の拡販、新製品の開発、高付加価値水産物の販売の取組みは着実に進展。 ◇ 人員体制の充実及び製品の製造における課題が残り、販売量が減少。 ◇ ROICツリーの活用の落とし込みが不十分。

21

2. その他セグメントの事業成長の加速

基本戦略	25.3期(計画1年目)の取組み評価と課題	
【鶏卵販売】 ◇ 特殊卵の販売強化 ◇ 特殊卵の開発・販売 【肥料】 ◇ 新規顧客開拓 ◇ 堆肥入り配合肥料の拡販 【畜産用機器(子会社)】 ◇ 新規・追加設置の獲得 ◇ 中国・東南アジア等への販売強化 【保険代理業(子会社)】 ◇ 畜産保険の販売強化		◇ セグメント利益は計画を大幅に超過。 ◇ 各事業の主な課題 【鶏卵販売】 ○ 安定供給のための取組み 【肥料】 ○ 生産者の需要変化への商品対応 【畜産用機器(子会社)】 ○ 利益率の改善、既存顧客との信頼関係強化 【保険代理業(子会社)】 ○ 販売強化の体制整備

22

3. 収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進

基本戦略		25.3期(計画1年目)の取組み評価と課題	
【環境の主な取組み】 ◇ 温室効果ガス排出量の削減 ○ 2030年度までに20年度比30%削減 【ガバナンスの主な取組み】 ◇ 取締役会の実効性向上 ◇ リスクマネジメントの実効性向上 【社会の主な取組み】 ◇ 働きやすく働きがいのある職場づくり ◇ 人的資本への積極的な投資 ○ ESの向上 ○ 人材採用・育成 ○ 働き方の変革対応		【環境】 ◇ 温室効果ガス排出量の今後の削減プランの見直し ○ 23年度実績は20年度比12.6%削減	
		【ガバナンス】 ◇ 取締役会、リスクマネジメントにおける更なる実効性向上の取組み	
		【社会】 ◇ 人的資本への取組みが緒に就いたばかり。 ○ 継続的な処遇改善や社員エンゲージメントの向上が必要 ○ 研修プログラムの充実など人材育成のさらなる取組みが必要 ○ 柔軟な働き方の実現取組みが必要	

25.3期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	11
② 差別化飼料・環境に配慮した飼料の販売状況 ..	12
③ 原料ポジションの状況	13
④ 変動費の状況	14
⑤ 水産飼料の動向	15
◇ その他セグメントの状況	17

中期経営計画2024の進捗状況
(2025年3月期～27年3月期)

◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ	19
◇ 中期経営計画2024の進捗	
① 総括	20
② 飼料セグメント	21
③ その他セグメント	22
④ サステナビリティ経営	23

2026年3月期業績予想

◇ 26.3期 業績予想	25
◇ 26.3期 営業利益の増減要因	26
◇ 26.3期 主要指標計画	27
◇ 取組み方針	28
◇ 株主還元計画	29

その他

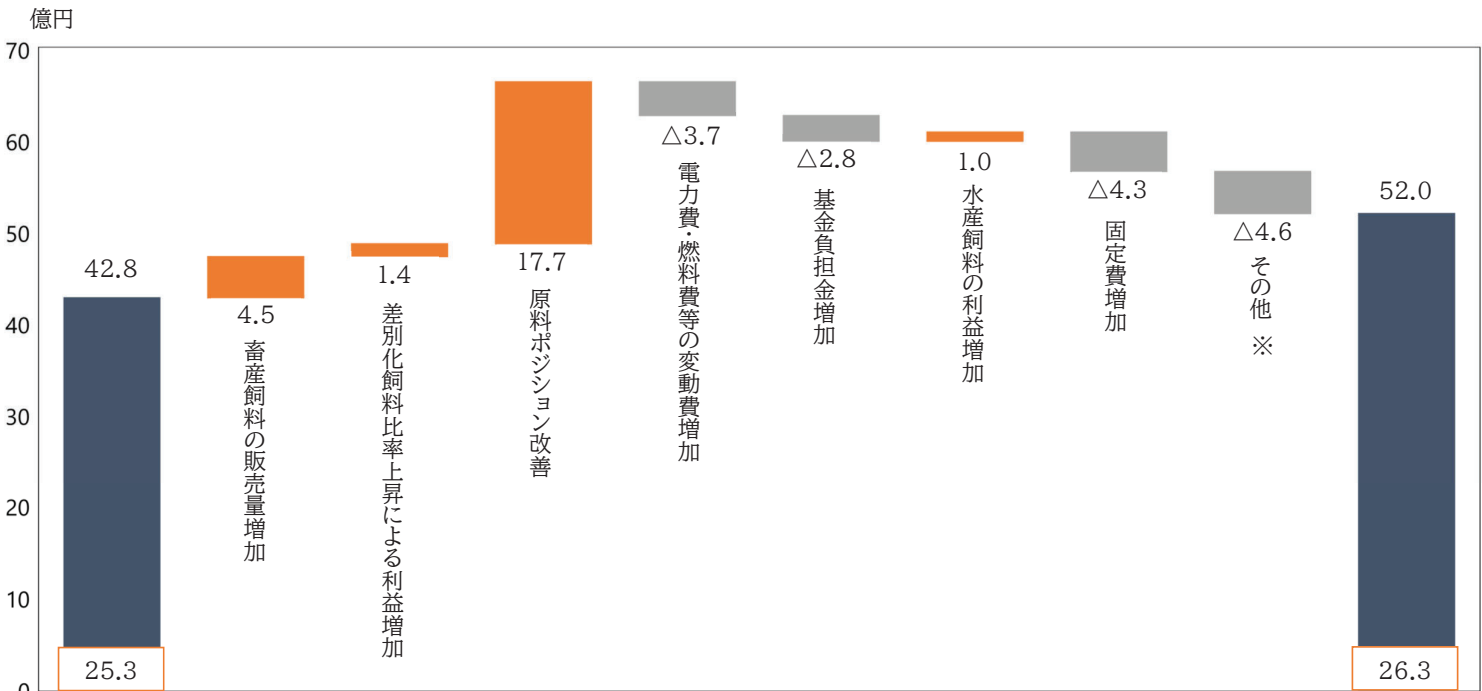
◇ トピックス	31
◇ 配合飼料価格安定制度、差別化飼料等	32
◇ 飼養頭羽数及び戸数の推移	33

26.3期 業績予想

	25.3期 実	26.3期 計	前期比	26.3 中計 (2年目)
売上高	209,837	212,000	2,163	—
飼料	191,390	194,500	3,110	—
その他	18,447	17,500	△947	—
営業利益	4,281	5,200	919	5,400
経常利益	4,815	5,600	785	5,800
セグメント利益	4,986	5,850	864	6,100
飼料	3,958	5,200	1,242	5,500
その他	1,405	950	△455	950
調整額	△377	△300	77	△350
当期純利益	3,503	4,100	597	4,300
ROE	5.3%	6.0%	0.7%	6.5%
ROIC	3.7%	4.6%	0.9%	4.9%
DOE	2.3%	2.7%	0.4%	2.7%
設備投資額	4,167	3,500	△667	4,000
減価償却費	2,971	3,050	79	3,100
基金負担金	5,238	5,500	262	5,500
基金負担金(円/トン)	1,820	1,844	24	1,820

- (単位:百万円)
- ◇ 飼料販売増による増収とその他セグメントの畜産用機器の減収を予想。
 - ◇ 利益予想は前期比増益を計画するも中計2年目をわずかに下回る。
→ 飼料セグメントの販売量が25.3期計画を下回った影響と、物価上昇によるコストの上昇が主な要因。
 - ◇ ROE、ROICとも上昇を計画。
ただし、中計2年目計画を下回る見込み。
 - ◇ DOEは中計計画どおりを見込む。
 - ◇ 設備投資額は前期を下回る見込み。
 - ◇ 基金負担金単価はわずかに増加。

26.3期 営業利益の増減要因



※ 主にその他セグメントの減益

26.3期 主要指標計画

【畜産飼料】	25.3期実績	26.3期計画	26.3期 計画(2年目)	
畜産飼料販売量（前期比）	302万トン (100.7%)	311万トン (103%)	314万トン	◇ 畜産飼料の販売量増加、差別化飼料の売上高構成比上昇を計画。
差別化飼料の売上高構成比	45.9%	47.0%	48.5%	◇ 中計2年目計画を下回る見込み。
環境に配慮した飼料販売量(※)	124	140	135 (3年目に150)	
【水産飼料】	25.3期実績	26.3期計画	26.3期 計画(2年目)	
水産飼料販売量（前期比）	35千トン (93.4%)	37千トン (107%)	39千トン	◇ 水産飼料の販売量増加等を計画。
環境に配慮した飼料販売量(※)	121	150	170 (3年目に200)	◇ 中計2年目計画は下回る見込み。
	25.3期実績	26.3期計画	26.3期 計画(2年目)	
その他セグメント利益(合計)	14.0億円	9.5億円	9.5億円	◇ 畜産用機器の減益予想により、その他セグメント利益は減益計画。 ◇ 中計2年目計画どおり。

※ 24.3期の販売量を100とした指数

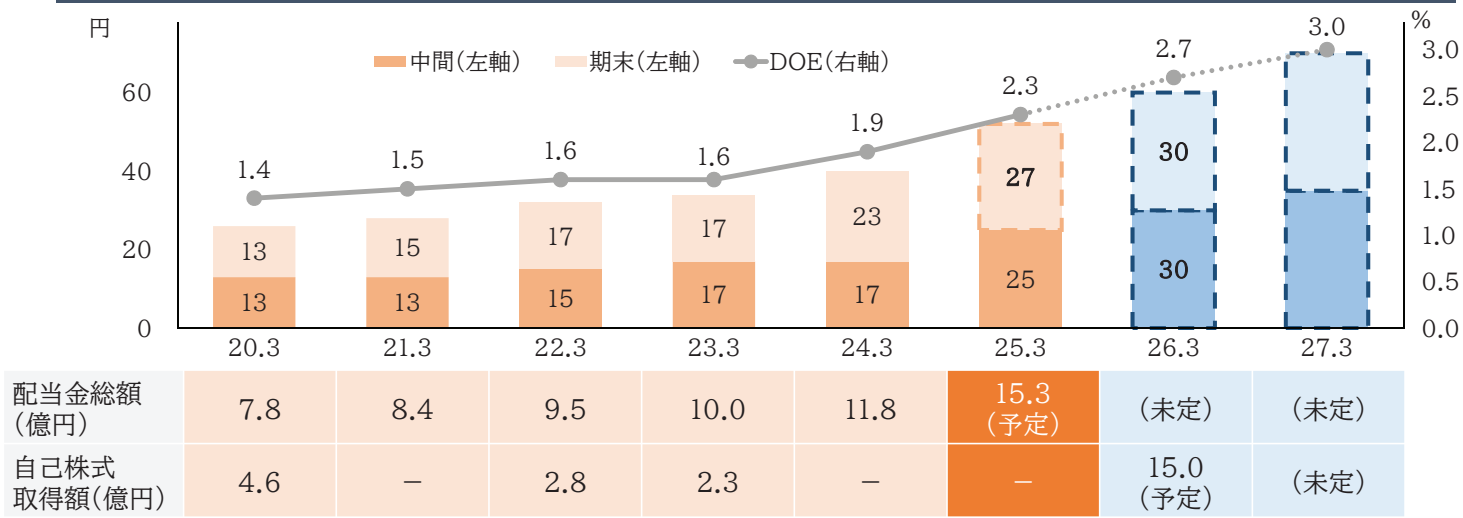
取組み方針

◇ 26.3期は中期経営計画2024で策定した基本戦略の取組みとともに、領域ごとの課題について重点的に取組む。

基本戦略	重点取組み
飼料セグメントの 規模拡大と収益力向上	◇ 飼料販売量の増加に向けての取組み ○ 大型投資を行った研究施設を活用した新製品開発及び既存製品のブラッシュアップ ○ 社内情報共有体制の整備による積極的かつ迅速な提案行動の強化 ○ 営業・研究人員体制の充実 ◇ 収益力向上に向けての取組み ○ 製品ラインナップの刷新による生産性の向上 ○ ROICツリーを活用した課題解決の実践
その他セグメントの 事業成長の加速	◇ 販売量の増加に向けての取組み ○ 新商品開発や既存商品のブラッシュアップ、営業体制の充実、安定供給の仕組みづくり
収益基盤を支える サステナビリティ経営の推進	◇ 温室効果ガス排出量の削減プランの再策定 ◇ サステナビリティ委員会・リスク管理委員会の活動強化 ◇ 「常に変革を目指し自ら考え行動する人材」の確保・育成のための取組み ○ ES向上、人材育成、働き方の変革、の各領域へ重点的に投資

- ◇ 25.3期 期末配当金は27円／株(2円増配)とし、年52円／株(DOE2.3%)を予定。
- ◇ 26.3期は、中間配当金・期末配当金ともに30円／株とし、年60円／株(DOE2.7%)を予定。
- ◇ 自己株式の取得を実施予定(2025年5月7日公表、115万株／15億円の自己株式取得を予定)。

1株当たり配当金及びDOEの推移



25.3期 決算レビュー

中期経営計画2024の進捗状況
(2025年3月期～27年3月期)

- ◇ 連結経営成績 4
- ◇ 営業利益の増減要因 5
- ◇ 連結財政状態 6
- ◇ 事業環境①②③ 7-9
- ◇ 飼料セグメントの状況
 - ① 畜産飼料の動向 11
 - ② 差別化飼料・環境に配慮した飼料の販売状況 12
 - ③ 原料ポジションの状況 13
 - ④ 変動費の状況 14
 - ⑤ 水産飼料の動向 15
- ◇ その他セグメントの状況 17

- ◇ 中期経営計画2024の基本戦略と位置づけ 19
- ◇ 中期経営計画2024の進捗
 - ① 総括 20
 - ② 飼料セグメント 21
 - ③ その他セグメント 22
 - ④ サステナビリティ経営 23

2026年3月期業績予想

- ◇ 26.3期 業績予想 25
- ◇ 26.3期 営業利益の増減要因 26
- ◇ 26.3期 主要指標計画 27
- ◇ 取組み方針 28
- ◇ 株主還元計画 29

その他

- ◇ トピックス 31
- ◇ 配合飼料価格安定制度、差別化飼料等 32
- ◇ 飼養頭羽数及び戸数の推移 33

◆ 投資を行った研究施設を積極的に活用し、製品力及び提案力向上へ。

養豚研究施設(愛知県)

- ◇ 22年12月より稼働開始
- ◇ 最新設備を擁し、省力化による効率的な試験の実施が可能



養牛研究施設(愛知県)

- ◇ 24年6月より一部稼働開始
- ◇ IoT技術を活用し、精密なデータ収集が可能



水産研究施設(大分県)

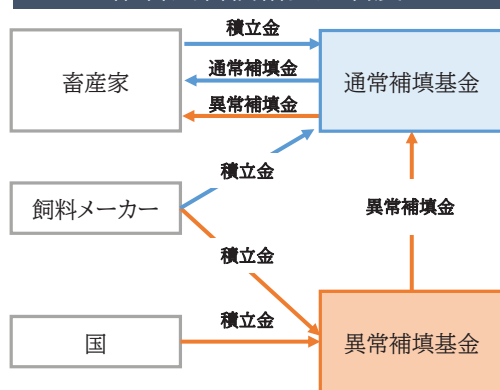
- ◇ 25年4月より稼働開始
- ◇ 大分県にて養殖業を営むグループ会社との連携を強化



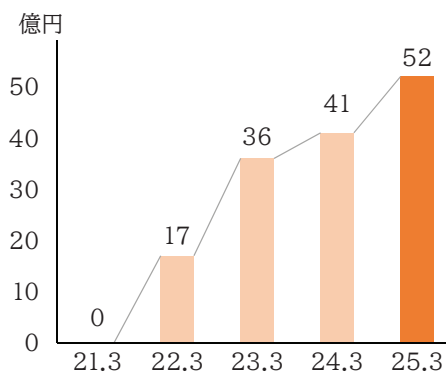
31

参考:配合飼料価格安定制度、差別化飼料・環境に配慮した飼料

配合飼料価格安定制度



④基金負担金の推移



- 目的** ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和
- 内容** ◇ 通常補填と異常な価格高騰時に通常補填を補完する異常補填の二段階の仕組みにより、畜産家へ補填金を交付
- ◇ 通常補填は畜産家と飼料メーカーが積立て
- ◇ 異常補填は国と飼料メーカーが積立て
- ◇ 積立金の額は財源により増減

差別化飼料

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

環境に配慮した飼料

- ◇ 環境負荷の軽減、動物の飼育環境の改善、海洋資源の保護等につながる飼料
- ◇ 従来の飼料と比べて鶏糞や豚糞の発生量を低減する飼料、魚粉を使わない水産飼料などがある

32

◇ 養鶏関係の戸数は減少も飼養羽数が増加
養豚・肉用牛・乳用牛は飼養頭数が減少も、それ以上に戸数が減少



大規模化が進む

	2023年2月1日現在			2024年2月1日現在		
	飼養頭羽数 (千頭・千羽)	飼養戸数 (戸)	1戸当たり 頭羽数	飼養頭羽数 (千頭・千羽)	飼養戸数 (戸)	1戸当たり 頭羽数
採卵鶏	128,579 (93.7)	1,690 (93.4)	76,082 (100.3)	129,729 (100.9)	1,640 (97.0)	79,103 (104.0)
ブロイラー	720,878 (100.2)	2,120 (98.6)	340,037 (101.6)	731,929 (101.5)	2,100 (99.1)	348,538 (102.5)
養豚	8,956 (100.1)	3,370 (93.9)	2,658 (106.6)	8,798 (98.2)	3,130 (92.9)	2,811 (105.8)
肉用牛	2,687 (102.8)	38,600 (95.5)	70 (107.6)	2,672 (99.4)	36,500 (94.6)	73 (105.2)
乳用牛	1,356 (98.9)	12,600 (94.7)	108 (104.4)	1,313 (96.8)	11,900 (94.4)	110 (102.5)

※1. 農林水産省 畜産統計、採卵鶏は成鶏めすの飼養羽数、ブロイラーは出荷羽数
2. カッコ内は前期比